

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑
(ユニット名)	花しょうぶ苑
所在地 (県・市町村名)	三重県亀山市本町1丁目2番12号
記入者名 (管理者)	村田照代
記入日	平成 20年 10月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誰もが慣れ親しんだ地域や自宅で家族などが見守る中で生活でき、家族が犠牲を強いられることなく利用者が日々明るく元気に過ごすことができ、地域に根ざしていくことを理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には理念を伝えると共に施設の様子や雰囲気を理解してもらっている。職員は、利用者が地域に根ざし明るく「和気あいあい」と日々過ごせることを念頭に日常のケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	訪問時や家族会、地域行事の折りにふれ利用者が慣れ親しんだ地域での生活を望み、そして元気になれるかを話している。また日常生活の中でも地域の人々と声を掛け合いながら理解が深められるように努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者は地域の方が殆どで散歩や買い物時には声をかけられることも多く職員とも顔馴染みになっている。新鮮な自家製野菜持ってきて頂きしばらくお話しされていかれることもある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや高校の体育祭等にも声をかけてもらい参加させてもらったり、小学生が季節の草花を持って訪問してくれたりが開設以来続いており、子供から高齢者まで幅広くお付き合いさせて頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所、職員共に地域の高齢者から相談を受けたりすることもあり、その都度良い解決方法を職員で話し合ったりしている。また年に何度か小、中、高校生の見学や実習も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者及び家族の安心と満足はもちろんのこと、利用者が心からくつろげいきいきと生活できる場作りを念頭に全職員話し合い取り組んでいる。毎年の評価結果はすぐに見直し改善を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では自己評価の内容や経過を説明すると共に現状や諸々の報告を施設側から行い、参加メンバーからは意見や要望を出してもらい話し合っている。また地域の情報も頂きサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議や手続き等で市役所を訪れ市担当者と顔を合わせることもあり日々の様子を伝えたりや相談等している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修資料や福祉の月刊誌などを用い、会議やミーティングの場で学び話し合っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的にはもちろんのこと言葉による暴力や虐待はないか、日々職員同士が話し合い注意しあっている。また研修資料や月刊誌等を利用しミーティング時にも話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約以前に何回も話し合ったり施設の見学をして頂き不安や疑問の解消に努めている。また、契約時にはご家族が十二分に納得できるように時間をかけて説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員に毎月来てもらっていることで利用者は相談員と顔なじみになり話やすい関係ができています。管理者や職員は利用者の意見や様子などを相談員に聞いたり、利用者に運営推進会議に出席してもらい話してもらい改善にしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時に生活の様子や健康状態等を伝えている。金銭管理は訪問時に出納帳、領収書等を見てもらいサインを頂いている。訪問が少ない家族には電話で日々の様子を伝えると共に訪問をお願いしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苑便りでお知らせしたり、運営推進会議、家族会、訪問時に何でも話していただけるように伝えると共に家族等が話しやすい雰囲気や環境を心がけている。また意見や苦情等は会議で話し合いケア等の向上に努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議やミーティング、日常の話の中でも意見や要望が言いやすいように心がけている。出された要望等は話し合いでできる限り反映させて質の向上につなげている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は職員の急病などに備えてシフトに入れずに昼夜対応できるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は4年、職員も2年半以上移動がなく利用者ともすっかり馴染みになっている。以前から職員交替時にはベテラン職員とシフトに入ってもらい利用者の混乱がないように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	資格所得や研修を受けスキルUPが図れるように勤務体制を考慮したり研修費の負担等の援助体制をとっている。また研修報告は朝礼や会議等で行い、質問なども受けている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	不定期ではあるが近隣の地域密着型事業者と意見交換を行っている。また地域の同業者とネットワークを作り地域のショッピングセンターで作品展を行い話し合う機会も多く意見交換などもしており質の向上に繋がるようにしている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	食事会等を行い職員の気分転換が図れるように、運営者や管理者に気軽に相談できるように考慮している。また職員各々の家庭環境や健康状態も把握し対応出来るようにしている。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は毎日何度も訪れ利用者と話したり食事をしたりしている。管理者はシフトに入り仕事をすることもあり職員と話合ったり心身の状態や仕事の様子も把握し働きやすい職場を心がけている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	デーサービス利用から入居に移行される方もあり、施設職員とも馴染みであり本人の思いを伝えてもらい易い雰囲気心がけている。また、家族と共に何度も施設を訪問して慣れてもらい安心できるように努めている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族や関係者から苦労話などをじっくり聞き、本人の思い、家族の求めている事などを踏まえたうえで、これからのケアの方向性を家族と共に何度も話し合い、信頼関係が作れるように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族に思いや現状を充分に聞き、可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に何度も施設を訪問してもらったり、デーサービス利用時にのぞいてもらったりして、徐々に雰囲気に馴染んでもらえるようにしており、安心してサービスに移行が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃から職員は単なる職場と捉えておらず家族という思いのなかで接している。共に泣いたり笑ったり、また利用者に教えてもらう事も多く、ねぎらいの言葉を掛けてもらったりすることもある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には利用者の様子を細かく伝え家族と一緒に喜んだりびっくりしたりしている。また外泊時には施設でのケアの仕方を詳しく説明し混乱なく外泊が出来るようにしており、家での様子も詳しく聞くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	以前の家族関係を踏まえた上で入所により更に悪くならないように訪問や外出の機会を増やしてもらったりして、家族の絆が希薄にならないように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デーサービスを併設しており馴染みの方や近隣の人に会う機会も多く、外出時に昔の同僚や知人に声をかけられる事もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員はつかず離れずの立場で見守っている。勝気な性格の利用者にリーダーシップをとってもらい役割分担ができており、職員は必要に応じそれとなく話の輪の中に入る事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所等により関わりが少なくなるのが現状であるが他施設入所や入院後も施設や病院を訪問したり家族に様子を尋ねたりしている。またご家族から差し入れを頂いたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の思いや希望は機会あるごとにお聞きしたり、利用者や職員との日常会話や生活状況の観察の中から把握すると共に家族等からも話を聞き把握するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族や本人から生活歴等を聞いているが、毎日の生活の中で今までの暮らしぶりを話してもらったりしており、時には家族も知らないことがあったりしてびっくりすることもある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日によって心身の状態が変化することもあるので職員は注意深く観察し見守り、出来る範囲で出来ることをしていただくようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時や日常生活の中で利用者の希望や意見を聞き、担当者会議で話し合い利用者の思いに添った介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新や心身の状態変化時には家族や関係者と話し合い速やかに現状に対応できるように介護計画を立て直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろんのこと連絡ノートや各種チェック表に日々の様子を記録し職員間で情報を共有している。また毎日利用者の状態を確認しながらケアを行い、日々話し合いながら介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が遠方の方など受診や買い物(本人希望)などにその都度対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は運営推進会議のメンバーであり情報を頂くだけでなく見学や相談にみえたり、近隣の小、中、高校生の訪問や見学の受け入れもしている。また避難訓練時には消防署員に来てもらったりボランティアの方にも来てもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の床屋さんに来てもらい楽しく話しながら希望の髪形にしてもらったり、市民が利用できる足湯に行き地域の人々との交流を楽しんでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センター職員や自治会長、民生委員等が運営推進会議のメンバーになっており、地域の情報や現状等を聞いたり意見交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設以来の協力医で利用者も非常に親しみ信頼している。体調変化時には24時間電話対応できるようになっており服薬指示等をうけている。また定期往診以外にも随時往診等にも対応してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医は他施設なども担当しており認知症の医療に熱心で利用者や家族の話もよく聞いてくれている。総合病院や神経内科とも連携し検査や治療が受けられるようになっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデースービスに看護職員がおり協力医や総合病院の看護職からもアドバイスを受け対応している。また看護師は近くに住んでおり夜間でも駆けつけてくれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には施設での生活、健康状況等を医療機関に情報提供している。入院中は職員が何度も見舞い利用者、家族、病院関係者などから治療経過を聞いたり、退院前には情報を提供してもらい退院に備えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の加齢に依るADL、体力低下などから重度化も考慮し日頃から本人、家族、かかりつけ医等と話し合う機会を持つようにしている。また職員全員でチームワーク化し方針等を話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちや意向を充分伺いながら家族ともよく話し合い、協力医や、職員、家族とも連携を図りながら安心して最期を迎えられるように取り組んでおり、協力医は急変時にはいつでも対応して頂けるようになっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの暮らしぶりや注意事項などの情報をプライバシーに配慮しながら伝え、転居後の混乱が最小限に抑えられるように努めている。またその後の訪問は転居先の生活に慣れた頃を見計らい行くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は親や身内、人生の先輩として尊厳を持って接するように折にふれ職員に話している。また個人の記録などの取り扱いには細心の注意を払うように会議時にはもちろんのこと日常的にも職員に話している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の会話の中で希望を聞いたり、新聞やテレビの情報から外出先を考えたりや誕生日のやり方、食事の内容を考え決めてもらっている。意思表示が不得意な方には例を挙げて決めてもらうようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	性格、体調等それぞれの状態に応じ対応している。居室で横になったり片付け物をしたり、フロアでおしゃべりをしたり自由に過ごしていただいている。家人等の訪問で食事が遅くなることもあるが本人が心地よく過ごせることが一番だと考えている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族が本人の好みの衣服を持参されたり、職員と買い物に行き好みの物を購入したりしている。理美容は馴染みの店にご家族と行かれたり定期的に出張サービスを利用されている方もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や話の中から出たものを献立に入れている。また家族や地域の方から頂いた野菜もみんなできれいに調理している。食後は個々のできる範囲で後片付けに参加していただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的にティータイムを設けており、各自好みの飲み物を飲んで頂いている。毎日のおやつは手作り、季節や行事、クエストに応じた物等を出している。お酒は記念日などに好みに応じて提供している。喫煙者は現在いない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	在宅で紙パンツを使用されていた方も日常の行動で尿意を察知し排泄パターンを把握し徐々に布パンツに移行したり、失敗が減るようにそれとなく付き添い支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後は一息ついたら居室で休まれるので、昼間ゆっくり入浴の希望者が多い。毎日入浴できるようにしているが拒否される方には声掛けの工夫やタイミングを見計らい自然に入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員は各々の生活のリズムを理解しており夜間良く眠れるように、昼間は極力フロアで過ごして頂いているが体調がすぐれない方は居室で休んで頂いたりしている。夜間寝つけない方には職員が話をしたりゆったりとした態度で接し薬剤は使用せずに寝ていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族に今までの生活の様子や暮らしぶりを聞き、食事準備や縫い物、書き物など各々の得意分野で役割を担ってもらっている。今まで出来なかったことが出来るようになることもあり家族がびっくりされることもある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	旅行や地域の行事には少額のお金を持っていただき職員がそれとなく付き添って各々の力に応じた買い物ができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の心身の状態をみながら天気の良い日には季節の花見に出かけたり、買い物に行ったりしている。また外食やドライブの行く先は利用者の希望を聞いて出かけおり気分転換が図れるように留意している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	テレビや新聞を見たり、日常の会話の中で行きたい場所を聞いたら利用者と共に話し合い可能な限り実行できるようにしている。また外出や外泊時に家族と共に墓参りや親戚宅を訪問してもらったりもしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員がそれとなく付き添い電話をかけてもらっている。また季節の挨拶状や地域行事に参加のお礼状なども出しており家族等に喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるようになっており、希望があれば泊まっていただけ部屋も用意している。日曜などは訪問者も多くお好きな場所でゆっくりとお話してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足させ会議やミーティングの場で話合っている。日中や夜間の不穏、不眠時も職員の対応で薬に頼ることなく対処している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初から玄関の日中の玄関施錠はしていない。事務所や併設のデーサービスからも人の出入りがよく見え、利用者が外に出て行く気配があれば散歩と捉えそれとなく付き添うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は建物の中央のフロアで記録などの事務作業をしており利用者の様子がよくわかるようにしている。食事準備や入浴介助時もフロアに常時職員が1～2人いるようにしており安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各人の状態に応じ包丁等の利用時は常に職員が傍について見守り、洗剤や包丁、裁縫道具などは利用者の目に付かない場所に保管しており夜間は浴室、台所に鍵をかけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し再発防止にはどのような対策が必要かをミーティングや会議で話し合い再発防止に努めている。また事故が報道されると職員間で話し合い意識の再確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が行う応急手当等の研修や勉強会に参加しており他職員に研修内容を伝え、事故発生時等の連絡網の周知や訓練等を定期的に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の職員に来てもらい避難訓練を行ったり、地域の人々と交流する中で協力を得られるように声掛けをしている。また被災事故を報道で聞いたり、地震を感じた時などには当事業所に置き換えて利用者と共に話し合ったり避難経路の確認をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	外出や旅行に出かけること、包丁やはさみを使うことで安全が損なわれないか心配されるご家族もあるが、このような日々の活動が利用者の表情を明るくしたり心身の活性化につながることを家族の訪問時に見てもらったり何度も話して理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日勤者、夜勤者はバイタルチェックのみならず食事、入浴、排泄、睡眠等日々の生活での様子を観察し変化時は家族、看護職員に連絡すると共に協力医に上申し受診や往診をうけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する説明は常時職員が把握できるように個人のファイルに入れている。また服用後は空袋をもらいきちんと飲んで頂けたか確認している。また薬の変更や状態変化等は口頭、ミーティング、申し送りノートなどを利用し確実に情報が伝わるようにすると共に看護職員や協力医と連携が取れるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜など繊維質を多く含む食材や水分の摂取に配慮し、散歩や体操などを毎日の日課としており、なるべく薬に頼らず自然な排便を促すようにしている。また排便状況も毎日チェックしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けし歯磨きをしてもらっている。磨き方が不十分な方には介助や見守りを行い、義歯は夜間洗浄液につけている。自歯の方は歯科受診をし歯石を取ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の健康状態や摂取量に応じて、メニュー変更や栄養食の取り入れ、水分量のチェック等を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し会議時などに再認識を行っている。インフルエンザ予防接種は毎年利用者、全職員が受けている。外から帰ったらうがい、手洗い、手指に消毒を徹底しており来訪者にも手指の消毒をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限、冷蔵庫内温度、食材の加熱等に留意し、食材の流水洗浄、食器調理器具の熱湯消毒を行っている。また調理に関わる職員、利用者の手指消毒等を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先のプランターの草花はご近所、家族、職員から頂いたものが多く、殖えてきたらお裾分けもしている。時には日光浴を兼ねて外でお茶を飲んだりゲームをしたりご近所の方と話したりしている。いつの間にか一般家庭の玄関先のようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は建物の中央にあり天窓から自然な光が注がれ、台所からは食事準備の音や匂いがしてくる。ご近所や職員から頂いた栗やサツマイモで栗きんとんや芋ご飯を作ったり、みんなで作った季節の貼り絵や習字などを壁に貼り、季節を肌で感じゆったり過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファや小テーブル、椅子が置いてあり各々が一人やグループでお気に入りの決まった場所で過ごすことが多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた家具等を持ち込み利用されたり、家族と撮った写真やご自分が製作した絵や習字を飾ったりしている方もありますが何より本人が心地よく過ごせるように職員は相談に応じたり援助している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候の良い時期には窓や天窓を開閉し換気や温度調節をしている。また冷暖房は利用者の様子に注意しながら調節しており、個人の体感によって座る場所を配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身長、体型、身体機能に応じ座布団や円座を使用しテーブルとの高さを調節したり、物干しや日用品の置き場所も利用者の目線に合った高さになっている。また安全確保のため廊下、トイレ、浴室にも手すりを付け各々状態に応じた援助をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の引き戸に各人が好みの色で作った折り紙で名札を作りつけている。また朝礼、体操時には日にちや職員の名前などを繰り返し確認したり日記をつけたり個々の力に応じたサポートを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のプランターには一年中グリーン植物や花が植わっている。建物横の花壇にはハーブなどが植えてあり利用者と共に摘んで食材にしたり、草花を摘んでテーブルを飾ったりしている。また天気の良い日にはテーブルを出してオープンカフェを楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は<明るく和気あいあい>をモットーに利用者に関わっている。毎月来苑の介護相談員からいつ来ても和気あいあいの雰囲気や日によっての格差がなく居心地が良いとの評価を頂いている。施設は街の中にあり亀山高校や東小学校の生徒、児童との交流も開設以来続けており子供から高齢者まで地域の人々が気軽に立ち寄れるサロンのような存在でありたい。